

2021.1.1

特集号



緊急消防援助隊

北海道東北ブロック合同訓練



大崎広域消防本部では、令和2年10月3日、「令和2年度緊急消防援助隊北海道東北ブロック合同訓練」を実施しました。

この訓練は、北海道・青森県・岩手県・秋田県・宮城県・山形県・福島県・新潟県で構成される「緊急消防援助隊北海道東北ブロック」が毎年開催地を変え実施しているもので、宮城県では平成24年に利府町で開催して以来8年ぶりとなるものです。訓練当日の午前9時に大崎市を震源とした最大震度7の地震が発生し、大崎市鳴子温泉鬼首地区を中心に建物の倒壊や土砂災害、ライフラインの寸断などの甚大な被害が発生したという想定で、緊急消防援助隊や宮城県広域消防応援隊、大崎市消防団、警察や自衛隊といった関係機関が多数参加し、連携して訓練に臨みました。



広報

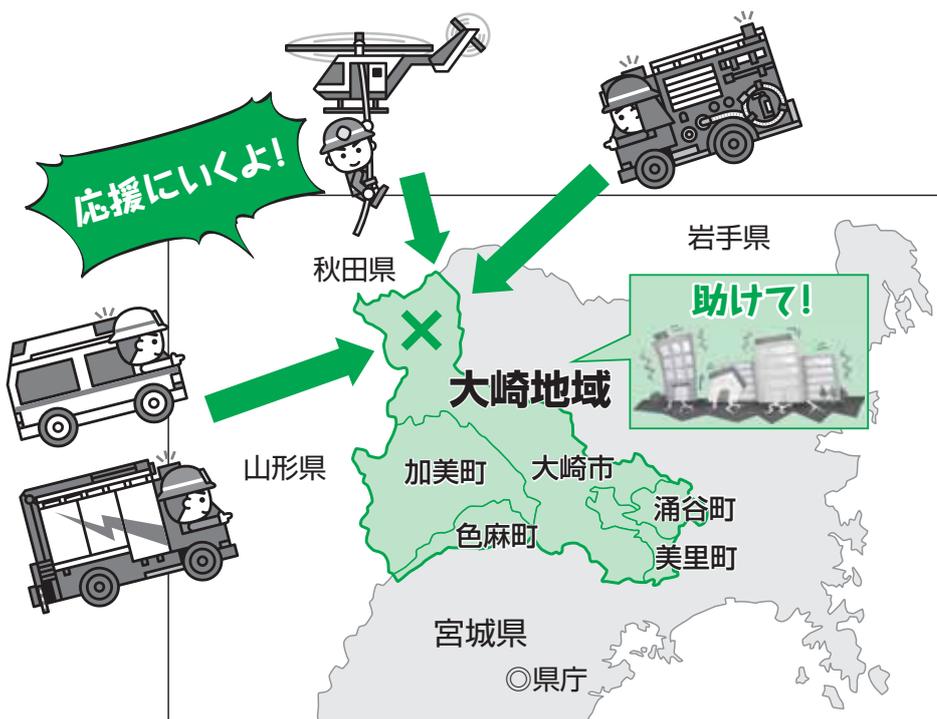
大崎広域

大崎市・色麻町・加美町・涌谷町・美里町

ク合同訓練についてご紹介します

緊急消防援助隊ってなに？

大規模な災害が発生して被災地の消防力が不足するとき、全国の消防機関があらかじめ登録されている車両を被災地に向かわせ活動を行う応援隊のことです。



平成23年の東日本大震災のときには、全国から緊急消防援助隊として、8854隊の部隊、3万684人の隊員が88日間にわたり被災地へ派遣されました。

どんな訓練を実施したの？何人くらい参加したの？

訓練の内容は、大きく分けて2種類あります。1つ目は、大規模な災害が発生し緊急消防援助隊を要請したり、受け入れたりするときのシミュレーションを行う「図上訓練（本部運営訓練）」です。そして2つ目は、災害現場を再現し、実際に救助救出活動や消火活動などを行う「実動訓練」です。

今回は、宮城県庁・宮城県防災ヘリコプター管理事務所・大崎広域消防本部庁舎・鳴子消防署で図上訓練を、仙台地区石油コンビナート等特別防災区域内・荒雄湖畔公園・鳴子ダム流木集積所等で実動訓練を行いました。

これらの訓練には消防機関と関係機関から、合わせて524人が参加しました。（実動訓練の詳細は3ページ参照）



▲図上訓練の様子（大崎広域消防本部庁舎）

感染症対策は？

訓練は、テントでの野営を含む2日間の予定でしたが、今回は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、規模を縮小して1日限りで行いました。

手指消毒薬の活用や換気はもちろん、図上訓練参加者のフェイスシールド及びマスクの装着、関係者の検温や体調チェック票の提出、視察場所のローテーション制導入などの対策を取りました。実動訓練では、マスクを装着したまま活動するなど細心の注意を払って訓練運営にあたりました。



緊急消防援助隊北海道東北ブロック

津波災害救助救出訓練



地震により大規模な地滑りが発生し、鳴子ダム上流の荒雄湖に大量の土砂が流れ込んだことで津波が発生、荒雄湖畔公園付近に浸水被害が発生したという想定で、木の上に取り残された人や対岸に取り残された人などを救出しました。ドローンによる検索や、宮城県警察、消防団、防災ヘリコプター等と消防との連携により、多くの要救助者を救出し、救急隊やDMAT（医師など）による専門トレーニングを受けた災害時医療チーム）に引継ぎました。

石油コンビナート区域災害対応訓練



仙台市で最大震度5強の地震を観測し、仙台地区石油コンビナート等特別防災区域内にある危険物施設等が被害を受け、危険物火災が発生するとともに、陸上及び海上において危険物が流出したという想定で、海上保安庁や緊急消防援助隊が連携して、消火作業や流出した危険物の回収作業等を行いました。



部隊参集訓練



緊急消防援助隊や県内各消防本部からの応援隊は、活動現場や任務分担を確認するために、一度指定した場所に集結します。

適正なルーの選定や通行止め情報などの共有を行いながら、迅速に被災地・鳴子に入りました。

後方支援活動訓練



最前線で活動する隊員をサポートする「後方支援隊」。その主な活動内容は、各種資器材の輸送、燃料確保、給食・給水、衛生管理などで、緊急消防援助隊の出勤に伴い、宮城県隊として感染症対策も含めた後方支援活動を実施しました。

土砂災害救助救出訓練



土砂災害警戒区域となっている山間部の集落において、前日から続く記録的な大雨に加え、震度7の地震が発生したことによって、大規模な土砂災害が発生したという想定で、訓練を行いました。災害救助犬、宮城県建設業協会の重機による検索や、陸上自衛隊、消防団、宮城県警察等と消防との連携した活動により、土砂に埋もれた人を探し出し救出しました。

また、倒壊した家でガス漏れが原因の火災が発生したという想定で、消防団等による一斉放水も行われました。

あまり見られない!

めずらしい車両などが大集合!



水陸両用バギー



支援車



緊急消防援助隊には、大規模な災害で必要となる様々な特殊車両が登録されています。通常の消防車両は各消防本部が整備しますが、このような特殊車両には、国が整備し、消防本部に無償で貸出しているものがあります。(大崎広域消防本部に配備されている、中型水陸両用車(カムロアークス)もこれにあたります。) 今回の訓練では、このような車両もたくさん参加しました。

また、消防車両以外にも、ヘリコプターやブルドーザーなど色々な車両等が訓練に参加しました。



機動隊現場指揮官車



救難ヘリコプター



中型水陸両用車(カムロアークス)



無線中継車



スーパーボンバー



油圧ショベル



防災ヘリコプター



ブルドーザー

緊急消防援助隊北海道東北ブロック合同訓練は、構成する1道7県で毎年順番に開催地を変えて行われます。来年度の開催地は「北海道」です。今度は、北海道で大規模な災害が起きたという想定で、その他の県が応援に駆けつけるという訓練を行います。

実際に大崎広域消防本部はこれまで、平成28年台風10号による岩手県岩泉の豪雨災害、平成30年北海道胆振東部地震災害等に緊急消防援助隊として出動しています。

また、来年度は、5年に一度の「全国合同訓練」が静岡県で開催されます。

これは大規模災害が静岡県で発生し、全国の都道府県全てが応援

次回の訓練はいつ? どこで?



令和2年11月13日、アインパルラ浦島において、今回の訓練実施に当たり特に多大なご協力をいただいた「菅基建設株式会社」様、(訓練会場設置・撤収)「株式会社東亜レジン古川」様、(看板制作)「三共自動車販売株式会社」様、(廃車提供) に対し、当組合管理者から感謝状を贈呈しました。

感謝状を贈呈しました

令和2年11月13日、アインパルラ浦島において、今回の訓練実施に当たり特に多大なご協力をいただいた「菅基建設株式会社」様、(訓練会場設置・撤収)「株式会社東亜レジン古川」様、(看板制作)「三共自動車販売株式会社」様、(廃車提供) に対し、当組合管理者から感謝状を贈呈しました。



のため静岡県へ駆けつけるとい訓練です。こうして、各消防本部や関係機関は、普段はそれぞれ地元の地域を守るための訓練を行いつつ、地域外とも連携し、いつ大規模な災害が来ても迅速に対応できるよう合同訓練を行っています。大崎広域消防本部は、これからも圏域を守るため日々尽力していきますので、引き続き消防行政にご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

問 大崎広域消防本部防災課

☎ 24 | 4 2 3 9

